

9月の支出(図書、備品、慶弔、飲食除く)

90,801円

情報公開の第一歩 政治資金を見えるようにします。

印刷代(月刊武松用紙代)	19,720円
交通費(駐車場、燃料代)	13,561円
通信費(折込代、携帯電話代)	57,520円
支出計 24/9/1~24/9/30	90,801円

寄付 Nさん Yさん 10,000円

市政を考える

月刊武松

発行日
24/10/1

第222号

19400部発行

たけまつ ただし

頒布責任者：武松 忠(市議会議員)

市民会館跡地等活用事業

整備基本構想の策定について

市民会館跡地の活用について説明します。

■目的

2023年3月に策定した**市民会館跡地等活用計画**に基づき、市民会館跡地をはじめ、本町臨時駐車場、市土地開発公社の用地を対象事業地として、これまでの市民等を中心とした講習会や、民間事業者の情報収集結果を踏まえ、基本構想を策定する。

■基本理念

市民会館跡地等活用計画で掲げた**まちのリビング**を活用コンセプトとして、対象事業地の整備・管理運営に興味を示す民間事業者と日常的に利用する市

民等がお互いの立場を尊重しながら、主体的に関わり、共に育んでいく関係性を構築していき、求められる施設整備と管理体制を整え、持続可能な魅力ある空間活用を創出する。

■整備・活用方針

- ①国道1号から小田原城までの軸線(天守閣眺望景観の確保)
- ②小田原駅・各商店街やかまぼこ通り方面への回遊性の創出
- ③小田原城や小田原三の丸ホール等の拠点間連携による賑わいの創出 裏面に続く

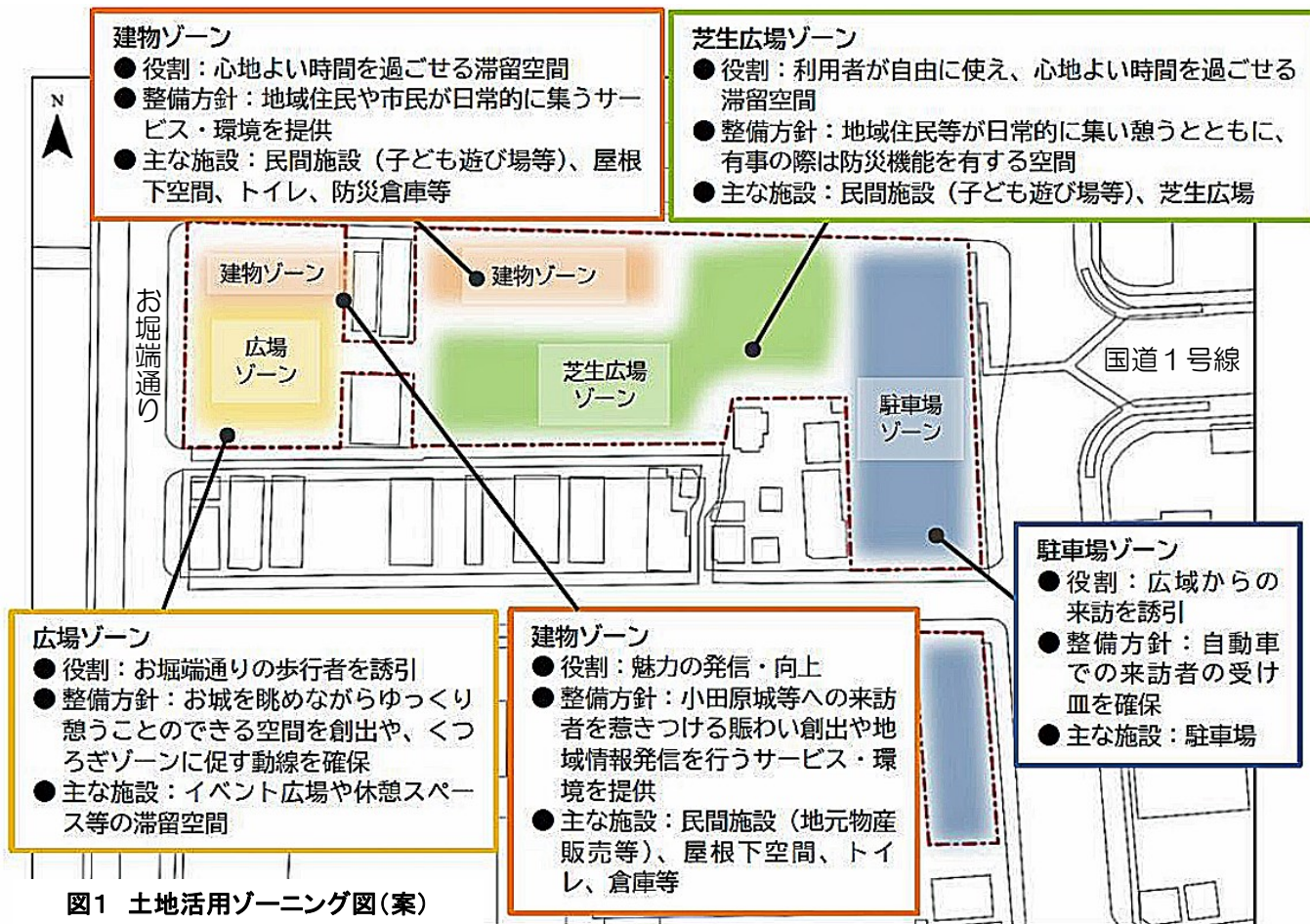


図1 土地活用ゾーニング図(案)

市民会館跡地事業手法

■民間事業者から提案のあった事業手法

民間事業者からの情報収集調査では、次の4つの事業手法が提案されましたが、引き続き、民間事業者との対話を重ねていき、最適な事業手法を検討しながら、今後の基本計画に反映していく予定です。

①指定管理者制度

市が施設等（広場・建物・駐車場）の設計及び施工を行い、建設後は、公募等により民間事業者を管理者に指定して、施設の管理運営を行う。

②DBO方式（設計・建設・運営管理）

市が施設等（広場・建物・駐車場）の設計及び施工を行い、建設後は、民間事業者を管理者に指定して、施設の管理運営を行う。

③定期借地方式

市が民間事業者に用地を貸し付け、民間事業者の資金により、収益施設にあわせ、広場等の公開空地等を設計・施工し、施設等の管理運営を行う。

④PFI BTO方式

市と民間事業者との契約に基づき、民間事業者が広場を含めた施設等の設計及び施工に係る資金調達を行い、建設後は、市に所有権を譲渡し、一定期間、民間事業者が施設等の管理運営を一体的に行う。



図2 整備イメージ

水産市場再整備について

老朽化している水産市場の再整備基本構想策定事業について説明します。

■現時点での基本方針

- ・市が継続して開設者となり、事業を推進する主体となる。
- ・市場運営を継続しながら整備事業を展開する。
- ・現在地での建替えを基本とする。
- ・整備期間中は仮設市場用地を確保・整備し、一時的に移転した上、既存市場を解体し新市場を整備する。

■事業概要

築55年以上が経過し老朽化と腐食が進んでいる公設水産地方卸売市場の再整備については、青果市場との統合などさまざまな可能性の検討を経て、2023年度に現在地建替えの方向性を決定した。

将来にわたり持続可能な市場運営を念頭に置きながら、将来取扱量の想定や施設規模の再算定など、再整備事業を具体化し進捗させるため基本構想を策定する。

■予算額

298.7万円 2024～25年度継続事業
継続費設定額 1493.3万円

■期間

約15 ヶ月間（予定）

■スケジュール

2024～2025年度末

基本構想策定

2026～2027年度

基本計画策定

2027年度以降

基本設計・実施設計、本体工事

■課題

昨年11月に視察したJFしまね大田水産物地方卸売市場（静間町和江漁港）は、市場内に仲卸の事務所や食堂は設置されていません。これは、整備補助金交付に制限があり、事務所等設置要望は見送られたとのことでした。

仲卸業者等の理解を得て事業を進めているか

■お知らせ■

10月の議会報告会は、都合により中止します。
11月の月刊武松の発行配布は都合により中止します。



公式HP
月刊武松パナパナ他



X (twitter)
防災・感染症情報



facebook
日々の情報など



小田原市令和6年度
当初予算の概要

